

福島で 農業を 始めよう



市では、農業を始める方が軌道に乗るよう相談・体験・研修・営農・定着までの各ステップで「めぐりつしゅサポートパッケージ」として全面的に支援しています。

今回は、市の農業支援を受けながら、就農・独立した3組の農家さんをご紹介します。

※「めぐりつしゅ」：「アグリ（農業）」、「フレッシュ（新規就農者）」、「ウィッシュ（成功を願う）」という3つの要素を含んだオリジナルの言葉。

カメラマンとの兼業でエゴマを栽培 加工商品化（6次化）へも取り組む

フリーランスカメラマンの肩書を持ちながら、エゴマを耕作する富樫敏広さん。農業に興味を持ったのは、カメラマンとして取材に行ったエゴマ農家さんとの出会いがきっかけです。

「エゴマが、年1回収穫できる作物であること、5月に定植して10月収穫なので、11月のカメラマンとしての繁忙期と重ならないのも選んだ理由です」。

スタートは、「週末ファーマー体験講座」。ここで農産物の生産から販売までを、実地体験や講座で基礎から学びました。その後、「農業経営開始支援事業」の経営支援を受けつつ、知人から



▲収穫したエゴマの実をシートへ叩き落とす

耕運機を譲り受けたり、農地を紹介してもらうなどの縁をつなぎながら、令和元年に兼業農家として就農しました。収穫したエゴマは、エゴマ油に加工して卸業者へ販売しています。

「技術的にはまだまだこれからなので、トライ＆エラーを繰り返して毎年成長できたらと思います。分からないことは周りに聞きながら、軌道に乗れば規模を拡大していき、専業農家になりたいです」。

高所作業機械を 導入してのリンゴ収穫

リンゴ・モモ・洋ナシを耕作している父の後を継いで就農した「さとう果樹園」の佐藤真樹さん。

就農を考えるまで、農業経験はなかったと言います。父の農地を借り、父に農業技術を学び、この秋が2回目の収穫です。今年、本市の「農業機械支援事業」を利用し、高所作業機を導入しました。

「リンゴの木は高いところで3メートル程です。高所作業機があれば、リフトで果実に手を伸ばせるところまで昇れるので、作業効率が格段に違います」。

モモ・リンゴの専業農家に転身

親戚の農作業の手伝いをきっかけに農業に興味を持ち、サラリーマンから専業農家に転身した「みやざき果樹園」の宮崎遥さん・奈津美さんご夫婦。

「農業はやった分が結果に反映されるので、自分が良いと思っただけをたくさん突き詰められるところが魅力です」。

当初は勤めながら、知人の果樹農家の手伝いをさせてもらったり、本やインターネットでの情報収集やセミナーを受講したりと活動を重ね、就農を実現させました。

就農までには、農業を通し地域活性化に取り組む「東湯野ふるさと保全組合KA-KA-SHI組」の存在が欠かせませんでした。



▲KA-KA-SHI組と宮崎遥さん(右)

また、就農した際、最もやりたかった、ハウスでのレモンの試験栽培にも取り組み、来年は生産量を増やすため露地栽培に挑戦する予定です。レモンを扱っている農家が近くにいないので、インターネットなどで情報を得ています。6次化商品の開発にも意欲的で、クラフトコーラへの加工を検討中です。また、今年「ふくしまスイーツ・プレミアム」で2つの商品が認証を受けました。



▲ふくしまスイーツ・プレミアム認証品「おうちdeパフェ」

「KA-KA-SHI組には、研修での指導から、農地や中古農機の紹介までお世話になっています。気軽に相談できる、頼りになる先輩方です」。

宮崎さんは、「農業次世代人材投資事業」により経営支援を受けながら、県の専門職員やJAなどからも指導を受け、この秋就農して2回目の収穫を迎えました。

収穫した果物はJAに出荷するほか、個人販売も行っています。「購入していただいた方に『おしかったよ』と言ってもらえて喜びもひとしおでした。まだ品質にばらつきがありますが、先輩方に負けない高品質のものを作れるよう、より技術の研鑽に努め、福島の果物のおいしさを広めたいです」。



▲作業の全てはご夫婦で協力して行う

あなたの就農を応援します！

「めぐりつしゅサポートパッケージ」では、3組のように、専業農家も兼業農家も営農が軌道に乗るよう支援するだけでなく、農業機械の購入についてもサポートしています。

就農した後もセンパイ農家さんが資材の購入や栽培技術などの相談役となり、農業全般をサポートする仕組みも運用中です。農業に興味がある方はお気軽に農業企画課までご相談ください。

問／農業企画課

☎5255-3740

